

水稻育苗箱用殺虫殺菌剤

WCS用稲にも
使えます

INETAISHO

稲大将

箱粒剤



外敵の侵入、
許すまじ!

紋枯病に!
Inpyrfluxam
インピルフルキサム

有効成分が
幅広い害虫に
Oxazosulfyl
オキサゾスルフィル



いもち病



紋枯病



イネツトムシ



フタオビコヤガ



ミカメイチュウ



コブノメイガ



イネドロオイムシ



イネミスゾウムシ



イナゴ類



トビイロウンカ



ヒメトビウンカ



セジロウンカ



ツマグロヨコバイ

- ① 3成分で水稻の主要病害虫と細菌性病害の防除可能
- ② 新規殺虫成分が幅広い害虫・既存の殺虫剤に抵抗性を持つ害虫にも高い効果
- ③ 新規殺菌成分が紋枯病に高い効果
- ④ は種時～移植当日まで使用可能

有効成分: オキサゾルフィル……2.0% インチアニル……2.0% インピルキサム……2.0% 人畜毒性: 普通物(毒劇物に該当しないものを指していう通称)

適用病害虫および使用方法

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	オキサゾルフィルを含む農薬の総使用回数	インチアニルを含む農薬の総使用回数	インピルキサムを含む農薬の総使用回数
稲(箱育苗)	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌) 苗立枯細菌病	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当り50g 高密度には種する場合は1kg/10a(育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当り50~100g)	は種時(覆土前)	1回	育苗箱の上から均一に散布する	1回	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	1回
	いもち病、白葉枯病、もみ枯細菌病、紋枯病、穂枯れ(ごま葉枯病菌)、内穎褐変病、イネミズゾウムシ、イネドロオウムシ、ウンカ類、ツマグロヨコバイ、ニカメイチュウ、フタオビコヤガ、イネツトムシ、コブノメイガ、イナゴ類	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当り50g 高密度には種する場合は1kg/10a(育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当り50~100g)	は種時(覆土前)~移植当日					
稲	いもち病、紋枯病	1kg/10a	移植時		側条施用		3回以内(直播でのは種時又は移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	

2026年4月現在の登録内容



被害防止方法(薬剤調製者・散布者)

稲: 不浸透性手袋

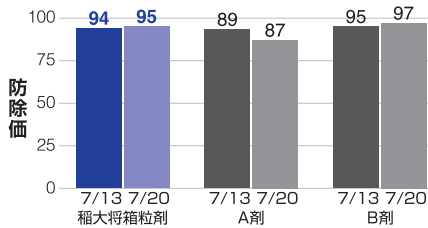


試験成績

いもち病

試験場所 長野県農業試験場(2020年)

品種 コシヒカリ
播種日 5月8日
移植日 5月27日
処理時期 移植当日
発生状況 葉いもち中発生(接種)
調査日 7月13日(移植47日後)
7月20日(移植54日後)
調査方法 各区100株(無処理区は30株)全葉の病斑数を調査し株あたり病斑数を求め、防除値を算出した。

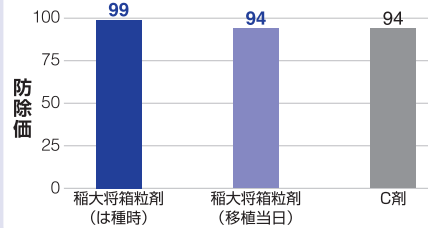


紋枯病

試験場所 (一社)日本植物防疫協会 宮崎試験場(2020年)

品種 ヒノヒカリ
播種日 6月5日
移植日 6月23日
処理時期 は種時(覆土前)および移植当日
発生状況 多発生(接種)
調査日 9月28日(移植98日後)

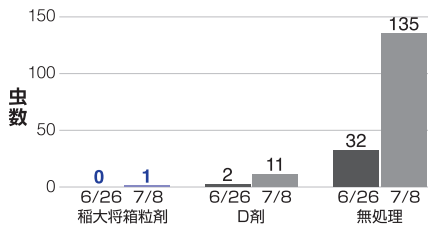
調査方法 各区100株の発病株率と発病株の病斑高率を調査し羽染法により被害度を求め、防除値を算出した。



イナゴ類(コバネイナゴ)

試験場所 鳥取県農業試験場(2020年)

品種 きぬむすめ
播種日 5月7日
移植日 5月29日
処理時期 稲大将箱粒剤 は種時(覆土前) D剤 移植当日
発生状況 少→中発生
調査日 6月26日(移植28日後)
7月8日(移植40日後)
調査方法 6月26日は計100株のみとり調査
7月8日は計40回の捕虫網によるすくい取り調査

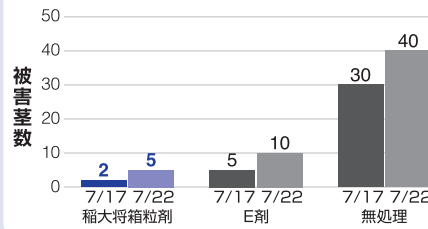


ニカメイチュウ

試験場所 (公社)石川県植物防疫協会(2020年)

品種 コシヒカリ
移植日 5月6日
処理時期 移植当日
発生状況 少発生(卵塊接種)
調査日 7月17日(移植72日後)
7月22日(移植77日後)

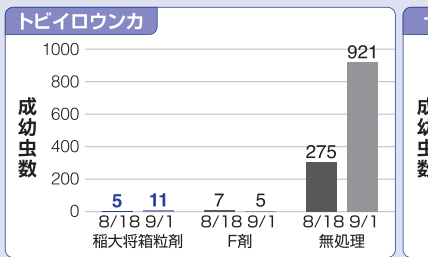
調査方法 計99株について被害茎数を調査



ウンカ類

試験場所 (一社)日本植物防疫協会 宮崎試験場(2020年)

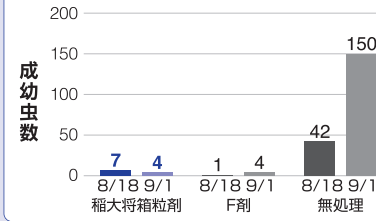
品種 ヒノヒカリ
播種日 6月5日
移植日 6月23日
処理時期 移植3日前
発生状況 トビウカ少→中発生、セジロウカ・ヒメトビウカ少発生
調査日 8月18日(移植56日後)
9月1日(移植70日後)
調査方法 計90株について粘着板への払い落し法で虫数を調査



セジロウカ



ヒメトビウカ



注意事項

〈薬効・薬害等の注意〉

- 育苗箱の上から均一に散布し、葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水して田植機にかけて移植してください。
- 育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当りに乾粒として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整してください。
- 側条施用する場合は、粒剤が均一に散布できる施用装置を装着した田植機を使用してください。
- 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗等には薬害を生じるおそれがあるので注意してください。
- 本田の整地が不均整な場合は薬害を生じやすいので、代かきはしていないに行い、移植後田面が露出しないように注意してください。
- いぐさ栽培予定水田では使用しないでください。また、本剤を処理した稲苗を移植した水田ではいぐさを栽培しないでください。
- さく等の他作物に影響を及ぼす場合があるので、薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように散布してください。

- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 低温での育苗条件では生育抑制を生じるおそれがあるので、温度管理に注意してください。

〈安全使用上の注意〉

- 吸入すると有害です。アレルギー性反応を起こすおそれがあります。粉じんの吸入を避け、屋外または換気の良い場所でのみ使用してください。吸入した場合は空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息をさせてください。気分が悪い時は医師の手当を受けてください。
- 水産動物(魚類)に影響を及ぼすので、本剤を使用した苗は養魚田に移植しないでください。
- 水産動物(甲殻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意してください。
- 直射日光を避け、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管してください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。 ●小児の手の届く所には置かないでください。 ●空袋は圃場等に放置せず適切に処理してください。

2026年4月作成 東宣 P1202604001